

第 605 回：文字数が足りない！一体何が起きている？（MI）

みなさんこんにちは。レポートや卒論を書いていると、様々なことで悩むだろうと思います。執筆中に生まれる色んな悩みの中で最もよく聞かれるのは、文字数に関するものです。卒論はもちろん、学期末のレポートでも、文字数やページ数の指定があるかと思います。しかし、書いてみたはいいものの微妙に文字数が足りない、といった場合や、書いている途中で既に文字数が足りないことがわかって絶望してしまった、といった場合など、文字数について悩んだことのない人は少ないのではないのでしょうか？今回は、そもそもレポートや卒論において文字数が足りていない、という状態が一体どういうものかを考えてみたいと思います。

「文字数が足りていないレポート・卒論」には何が起きているのでしょうか？この正体を探るべく、ひとまず「文字数が多すぎる文章」について考えてみます。例えば、新しいコミュニティに入ったときに自己紹介を 200 字程度で書く必要があるとします。名前、出身地など、あらかじめ指定された内容以外に、みなさんなら何を書きますか？きっと多くの人が、好きなものについて書くかと思います。好きな食べ物や好きな映画、そこから派生して趣味の話なども書けそうです。他の人と共通の趣味があれば話もしやすいので、好きな映画やスポーツについてありったけ書いてみます。映画のタイトルのみならず監督や脚本家なども含めて書いているうちに、あっという間に 500 字になってしまいました。これは「情報過多」な文章と言えます。では一方で、200 字の自己紹介で、映画とスポーツが好きです、としか書かなか

った場合はどうでしょうか。好きな映画のジャンルや、具体的なスポーツを知りたいと思いませんか？つまり、これは「情報不足」の文章といえるのではないのでしょうか。

さて、先ほどの例を踏まえた上で、「文字数が足りていないレポート・卒論」に戻しましょう。文字数が足りていない自己紹介は、情報が少ないものでした。対して、文字数がオーバーした自己紹介は、情報が多すぎるものでした。以上のことを考えると、「文字数が足りていないレポート・卒論」とは「文字数以外の何かが足りていない文章」だと言えます。必ず書く必要のあるものが書けていなかったり、抽象的な話にとどまっていたり、具体例がなかったりと、何かが足りていないということになります。言い換えると、書かなければならないことをしっかりと書けば、文字数は必ず規定に達するということです。逆に、文字数がオーバーしている場合は、何か余計なことを書いてしまっている可能性が高いです。

ここで使えるのが、論文が持つ「型」です。改めて「型」を見てみると、自分の書いた文章に足りない部分が見つかるかと思います。これに沿って新たに必要な部分を補って書いていけば、おのずと文字数は足りるかと思います。もし文字数が足りずに困っている場合は、改めて自分が書いてきた文章を読み、足りない部分がないか探してみてください。論文の「型」については、図書館にある論文の書き方等に関する書籍を参考にしてくださいね。